

経営講座

「新：高知県で儲かる会社を創る方法」

第15回テーマ

「高知県の地方自治体の力での「数多くの儲かる会社創り」は、こうすれば出来る。」

※他県の成功例、その4

村職員のアイデアと実行力で「1億円の展望料収入等の創出例」について詳説する。

ここでは他県の地方自治体の町長、地方公務員、住民による「数多くの儲かる会社創り」の成功例を紹介するが、ここで重要なことは、次に掲げる「環境創生勝利戦略」並びに「その戦略を成功させる為の勝利戦術」について、これらの戦略及び戦術が成功したからこそ「数多くの儲かる会社創り」が実現したものであり、これらの勝利戦略及び勝利戦術の成功要因に注視して熟読して欲しい。貴自治体での「数多くの儲かる会社創り」の実現を心より願っている。

「他県の自治体に出来て、高知県の自治体に出来ないことは無い」と私は確信する。

村職員のアイデアと実行力で「1億円の展望料収入等の創出」例

「うちの市町村は何も無いからダメだ。」よく聞く話である。しかしながら何も無いところの成功例はあるのだ。次にその成功例を紹介する。

【当時の環境】

青森県南津軽郡田舎館村は、人口が7,817人（令和元年6月末日現在の推計人口）で、資源や産業等は何も無い村だった。正に「うちの村は何も無い」状態だった。

【戦略】

村の職員が中心になって『村収入増加戦略』並びに『観光客増加戦略』を策定・実践。

【戦術】

村の職員が中心になって『田んぼアート』戦術を策定・実践

青森県田舎館村は、何もない村である。無理にあるとすると、それは田んぼだけ。

ただし、この田んぼは日本国中のどこにでもあるのだが、仕方なくそのどこにでもある田んぼを使って始めたのが、田んぼアートである。

この田舎館村の田んぼアートは、正に何も無いところからのスタートだ。しかしながら簡単に成功したのではない。最初は稲でモナリザの顔を描いたが、遠近法が分かっていたことがあっても、モナリザが下膨れの顔になり大失敗。

その後失敗を重ねて、高台から見下ろした際に浮き上がって見えるように測量技術を駆使した精巧な田んぼアートが出来上がった。



出典：田舎館村提供

【成果】

①観覧者数5年連続増加 ②展望料収入1億円突破 ③地方創生の一助

2015年度の観覧者数は5年連続増の34万人で、展望料収入は6200万円。2016年度は展望料金を100円値上げして300円（大人）としており、展望料収入は1億円を突破する勢いだ。この田舎館村の田んぼアートは、正に何も無いところからの成功例である。

最近では日本中の色々なところで見られる田んぼアートだが、この田舎館村のものは緻密さと完成度において他とは一線を画す見事さであり、お金を払って見に行きたいと思う田んぼアートである。最近では『第1田んぼアート』田舎館村展望台（田舎館村役場）と、『第2田んぼアート』道の駅いなかだて「弥生の里」（弥生の里展望所）の2カ所がある。

正に、この環境創生勝利戦略並びに環境創生勝利戦術が田舎館村における地方創生の一役を担っている。

注）この田んぼアートは色々なHPで紹介されているので、ぜひ一度その絵を見て欲しい。稲で描かれた見事な絵である。

< 龍馬社長大学 学長 奴田原 惇郎（ぬたはら・あつお） >